

都市再生整備計画 事後評価シート
上須頃地区

令和4年3月

新潟県三条市

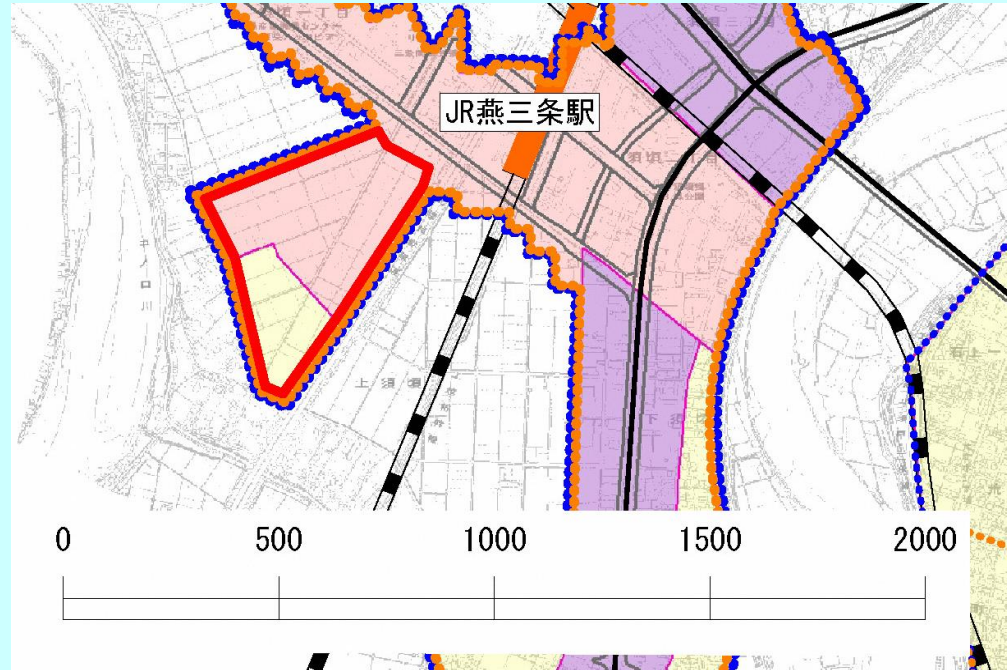
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	三条市		地区名	上須頃地区			面積	18.8h		
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	5,831.4百万円	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	高質空間形成施設、誘導施設(教育文化施設)									
			提案事業										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業										
	新たに追加した事業		基幹事業										
			提案事業										
交付期間の変更		当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	指標1	就学を理由として市内から流出する若者の人数	人	860	H30	790	R2	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	JR燕三条駅の1日平均の乗車人数	人	2,210	H30	2,320	R2		678	○	あり なし	進学者数自体が年々減少する中ではあるが、目標値を達成した。流出率についても一定数抑制することができた。	—
	指標3	なし									あり なし	コロナ禍において、県外等への移動自粛が求められていたため。なお、コロナ感染症収束後は回復することを想定している。	—
	指標4	なし									あり なし		
	指標5	なし									あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
	その他の数値指標1	なし											
	その他の数値指標2	なし											
	その他の数値指標3	なし											
4)定性的な効果発現状況	なし												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

上須頃地区(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
・若年層を中心とした人口動態の改善 ・広域的・基幹的な都市機能の集約を担う拠点としての都市空間の形成	就学を理由として市内から流出する若者の人数 単位:人	860 H30	790 R2	678 R2
	JR燕三条駅の1日平均の乗車人数 単位:人	2,210 H30	2,320 R2	1,037 R2
	単位:			
	単位:			
	単位:			



凡例	
	・・・計画区域
	・・・都市機能誘導区域
	・・・居住誘導区域

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・実学系ものづくり大学・医療系高等教育機関の整備により、就学を理由として市内から流出する若者の人数を一定数抑制することができた。 ・市外から入学者が一定数三条市内に居住した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・三条市内からの進学率を上げるため、引き続き市内の高校等へ実学系ものづくり大学・医療系高等教育機関の魅力について広報していく。 ・市外からの入学者に対し「学生まちなか居住促進事業補助金」等により三条市内への居住を促していく。 ・地元企業へのインターンシップや、R5年度開院予定の県央基幹病院での実習等を通じ、三条市内への就職に繋がるよう取り組んでいく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	街灯	6	N=45箇所	6	N=45箇所	無	—	●	
高次都市施設									
誘導施設(教育文化施設)	実学系ものづくり大学	3,000	A=17,908㎡	3,000	A=17,908㎡	無	—	●	
誘導施設(教育文化施設)	医療系高等教育機関	2,825	A=3,993㎡	2,825	A=3,993㎡	無	—	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	人	学校基本調査(文部科学省)における市内高校卒業後の大学進学者数及び専修・各種学校進学者数から、実学系ものづくり大学及び医療系高等教育機関への市内進学者数を差し引いて算出			860	H30	790	R2	モニタリング	—		モニタリング				
									事後評価	確定 ● 見込み	678	事後評価	○			
指標2	人	JR東日本ホームページで公開されている各駅の乗車人数を参照			2,210	H30	2,320	R2	モニタリング	—		モニタリング			○	
									事後評価	確定 ● 見込み	1,037	事後評価	△			
指標3									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み		事後評価				
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み		事後評価				
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 見込み		事後評価				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	進学者数自体が年々減少する中ではあるが、目標値を達成したため評価を○とした。 【参考1】R2学校基本調査結果 市内高校卒業後の大学進学者数及び専修・各種学校進学者数:700人 うち、医療系高等教育機関へ市内から進学した者の数:22人 【参考2】流出率に換算した場合、従前値:81.4%、目標値74.4%、R2実績値77.5%	・実学系ものづくり大学はR3から開学のため、指標計測値に含まれていない 【参考1】R3学校基本調査結果(速報値) 市内高校卒業後の大学進学者数及び専修・各種学校進学者数:615人 うち、実学系ものづくり大学及び医療系高等教育機関へ市内から進学した者の数:31人 【参考2】流出率に換算した場合、従前値:81.4%、目標値74.4%、R3実績値77.2%
指標2	JR東日本のHPより、1日平均の乗車人員を確認した結果、目標値を下回っていたため。	コロナ禍において県外等への移動自粛が求められており、数値に影響を及ぼしているものと考えられる。コロナ感染症収束後は回復すると見込まれる。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 建設部 建設課	令和3年12月	建設部 建設課(社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標○		指標○		指標○				
指標名		就学を理由として市内から流出する若者の人数										
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見			
基幹事業	実学系ものづくり大学	◎	実学系ものづくり大学・医療系高等教育機関の整備により、就学を理由として市内から流出する若者の人数を一定数抑制することができた。									
	医療系高等教育機関	◎										
	街灯	—										
提案事業												
関連事業												

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	市内からの入学者数を増加させるため、引き続き広報に力を入れていく。			
-------	-----------------------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標〇			指標〇			指標〇				
指標名		JR燕三条駅の1日平均の乗車人数													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	実学系ものづくり大学	△	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い県境を跨ぐ移動を制限されたため、目標達成に至らなかった。	分類Ⅲ											
	医療系高等教育機関	△													
	街灯	—													
提案事業															
関連事業															

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	ワクチン接種の推進等により感染拡大が収束することで、乗車人数の増加につながると考える。 また、今後は新しい生活様式の時代において人の移動数以外の指標についても検討する。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 建設部 建設課	令和3年12月	建設部 建設課(社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
若年層を中心とした人口動態 の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市内から実学系ものづくり大学及び医療系高等教育機関に入学した若者の数は、R2:22人、R3:31人 ※流出率に換算すると、従前値:81.4%、目標値:74.4%、R2実績値77.5%、R3実績値77.2% ・市外からの入学者のうち、一定数が三条市内に居住した 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内からの入学者数の更なる増加に向けて、市内の高校等に対し引き続き広報に力を入れる。 ・今後、地元企業や病院への実習等を通じ、地域に貢献できる人材を育成し、市内での就職に繋げていく。 	なし
商業や文化、情報、交流、産業支援などの高次都市機能の集積	上須頃地区土地区画整理事業により大学及び専門学校周辺の整備が概ね完了している。	R5開院予定の県央基幹病院や、民間商業施設の進出により、今後より多くの人・もの・情報が集積することが見込まれる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	実学系ものづくり大学・医療系高等教育機関の魅力度の向上	県央基幹病院隣接地、地場産業の集積地という強みを生かしたカリキュラム等を提供することで、他大学との差別化により学校の魅力度を向上させる。	地元企業へのインターンシップ、県央基幹病院への実習等
	定住促進のための支援	市外からの入学者を市内へ定住させるため、支援制度を検討する。	家賃補助等

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	市内からの入学者数の増加	・燕三条地域のものづくりへの愛着を持つ学生を増加させる。 ・市外へ進学する場合と比べて通学費や入学金の軽減等、経済的なメリットを発信する。	・小中学校等における刃物・ものづくり教育推進事業 ・市内高校への出張説明会、オープンキャンパス等の実施 ・各種ものづくり関連イベントの実施
	周辺環境の充実	実学系ものづくり大学・医療系高等教育機関の周辺にはJR燕三条駅や三条燕IC等、交通アクセスの利便性が高く、道の駅でもある燕三条地場産業振興センターがあるが、更なる「人・もの・情報」が集まる都市機能空間を形成する。	・県央基幹病院の設立（R5開院予定） ・民間商業施設の進出

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	就学を理由として市内から流出する若者の人数	人	860	H30	790	R2	確定 ○	678	○	あり				
指標2	JR燕三条駅の1日平均の乗車人数	人	2,210	H30	2,320	R2	確定 ○	1,037	△	あり ○				
指標3							確定			あり				
指標4							見込み			なし				
指標5							確定			あり				
指標5							見込み			なし				
その他の数値指標1				H			確定							
その他の数値指標1				H			見込み							
その他の数値指標2				H			確定							
その他の数値指標2				H			見込み							
その他の数値指標3				H			確定							
その他の数値指標3				H			見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	国の統計調査やJRの乗車数など、確実性の高い数値を用いることで分析が容易となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・指標設定については、時代の変化に左右されにくい単位を用いることが望ましい。 ・新しい生活様式の普及により、人の移動以外の指標も併用していく。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い高校卒業者総数が年々減少することが見込まれるため、指標を流出率とする方が望ましかった。 ・新型コロナウイルスの感染拡大によりJRへの乗車人数が大幅に減少した。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	設置の検討に当たっては、高校生や事業者へのアンケート調査、有識者による検討委員会・懇談会を実施し、幅広い意見を取り入れた。	
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
現時点ではなし

・今後、事後評価を予定する地区
三条市中心市街地地区(第二期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページを通してインターネット上で評価結果を公表し、意見収集を行う。	令和4年1月7日～1月20日	令和4年1月7日～1月20日	担当課への郵送、FAX、Eメール、持参	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	建設課供覧	令和4年1月7日～1月20日	令和4年1月7日～1月20日		

住民の意見	0件				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	三条地域振興局 地域整備部 計画調整課長 佐々木 正壽	令和4年2月7日(月)	建設課(社会資本整備総合交付金主管課)	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後評価委員会要綱	独自に設置
その他の委員	三条商工会議所地域活性化まちづくり委員長 長岡 信治 三条市自治会長協議会長 佐藤 栄 燕市都市整備部都市計画課長 高橋 英明				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	成果の評価について、適正であることが確認された。 ・委員の意見として、指標設定の根拠が少し分かりにくいとの意見があった。
	実施過程の評価	実施過程の評価について、適正であることが確認された。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理について、適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表の妥当性について、適正であることが確認された。
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きについて、適正であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	今後のまちづくり方策の作成について、適正であることが確認された。 ・委員の意見として、学生が中心市街地に愛着を持てるような取り組みをしてほしいと意見があった。 また、学生の生活面、経済面のサポートも充実してほしいと意見があった。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策について、妥当であることが確認された。
その他	特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
特になし		

有識者の意見	
--------	--